



大学共同利用機関法人

情報・システム研究機構

Inter University Research Institute Corporation
Research Organization of Information and Systems

2023 – 2024

国立極地研究所

National Institute of Polar Research

国立情報学研究所

National Institute of Informatics

統計数理研究所

The Institute of Statistical Mathematics

国立遺伝学研究所

National Institute of Genetics

データサイエンス共同利用基盤施設

Joint Support Center for Data Science Research

デジタルと統計の強みを活かし、 「ROIS」にしか出来ないことに挑戦します

世界各地での自然災害や紛争、世界的感染症の流行など、私たちは不確実性の高い、予測不可能な時代に突入しています。この現状を悲観し、ただ回復することを願い待ち続けるのではなく、未来を見据えて前に進んでいかなければなりません。

情報・システム研究機構は4つの研究所から構成され、生命、地球、自然環境、人間社会などの複雑な現象や問題について、情報とシステムという視点から据え直し、データサイエンスを推進することで、分野の枠を超えた融合的な研究により、その解決を目指しています。全ての大学の共同利用・共同研究を支えることをミッションとしており、最先端の大型装置や大量データ、貴重資料や分析法などを全国の研究者に提供し、大学の枠を超えた共同研究により、それぞれの専門分野における最先端研究を推進するとともに、データサイエンス人材の育成や教育DXの推進など、教育分野への貢献も牽引する世界に類を見ない我が国独自の研究機関の一つです。

国立極地研究所では、氷床掘削による過去数十万年までの気候変動を詳細に分析し、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）をはじめとする国際的な活動に貢献しています。今後の地球温暖化とその影響について、より精緻な分析やシミュレーションを行うべく、100万年を超える最古級の氷の採取を目指して新たな深層掘削の準備を進めています。南極高緯度地域は厳しい通信

環境ですが、昭和基地やその周辺から極地の映像を詳細に配信し、観測活動の重要性を発信することに加え、越冬隊員によるオンライン「南極教室」やGIGAスクールへの配信などにより将来の研究者育成にも貢献しています。

国立情報学研究所では、2022年4月よりネットワーク基盤であるSINETを世界最速となる400Gbpsの超高速ネットワーク基盤「SINET6」にアップグレードし、約1,000機関を超える大学や公的研究機関のみならず、小学校、中学校、高等学校での利用に加え、今後、産業利用や生涯教育での貢献も大いに期待されています。また、研究データ管理基盤「GakuNin RDM」の本格運用により、研究者のデータ管理を支援するだけでなく、研究データが正しく公開されることにより、これからのオープンサイエンスの発展を支えています。

統計数理研究所では、分子動力学法による高分子物性計算の全自動化に世界で初めて成功した「RadonPy」を開発・公開し、スーパーコンピュータ富岳の計算資源を活用することで、材料分野で世界的な課題とされている高分子物性データベースを10万種以上開発するという前人未踏な挑戦を続けています。また、同研究所が保有する世界最大のメモリーを搭載した「データ同化スーパーコンピュータ」は、自然科学や社会科学分野における巨大かつ複雑なモデルの推定とシミュレーションを即時に実施可能な環境を提供しています。

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構

機構長 喜連川 優



国立遺伝学研究所では、近年注目を集める二酸化炭素を海洋生態系の助けを得て吸収させる「ブルーカーボン」という考え方に立ち、ヒトと進化的に最も遠い系統にあるサメ類を対象とする海洋脊椎動物のゲノム情報を解き明かし、地球規模課題である温暖化や生物多様性の損失に対峙する上で欠かせない海洋生態系の理解に貢献しています。加えて、高温下、強酸性下、高塩濃度化の環境でも培養可能な微細藻類によるグリーンバイオの応用も進めており、機能的飼料やタンパク資源など様々な用途での利用が期待され、国内企業との社会実装に向けた活動を進めるなど、遺伝学による研究アプローチにより地球環境や生態系の変化の解明に貢献しています。

このように、4つの研究所は複雑科学を研究する2つの分野型の研究所と、全学問分野で共通して必要とされる情報学と統計数理科学の基礎と応用研究を担う2つの研究所から構成されており、相互に掛け合わせることで複雑科学に適用し、それを基にデータサイエンスを一層発展させることが可能な優れた組み合わせとなっています。さらに、2016年には4つの研究所の領域を横軸で繋げるデータサイエンス共同利用基盤施設を設置し、データドリブンな科学により社会にイノベーションを起こすべく、分野を超える活動を積極的に推し進め、新たな研究分野を開拓するとともに、その研究成果を広く社会に還元するオープンサイエンスによる取り組みを積極的に推進しています。

今日、2000年代から続く第3次AIブームに加え、ご承知のようにChatGPTの出現により、今後様々な分野やサービスにおいて革新をもたらし、ウェルビーイング向上に期待や可能性がある一方で、与えられる情報の真正性や正確性を問わないことから、利用者は情報の真実を見抜く力やリテラシーが求められます。AIが社会のあらゆる分野に進出し、日常生活の質が向上する中、これまでは予見できなかった新しい問題が生み出されていることも事実です。当機構としては、サービスと法律との関係性は当然のことながら、国民の利益や経済安全保障にも留意しつつ、デジタルと統計を最大限駆使し、我が国のみならず地球規模の課題解決や実現に向けて一層邁進いたします。

当機構は2004年に発足した若い組織です。特に産業界の方にとっては、必ずしも耳慣れない名称かもしれませんが。歴史ある4つの研究所を基盤としながら、法人としてのスケールメリットを活かし、ステークホルダーの皆さまに最大限還元できるよう今後の法人運営に取り組むことを目指します。

引き続き、情報・システム研究機構にご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

2023年5月

学理を究め、最先端の研究を推進する研究所・施設

極域科学、情報学、統計数理科学、遺伝学それぞれの分野をリードする各研究所を紹介します。



国立極地研究所

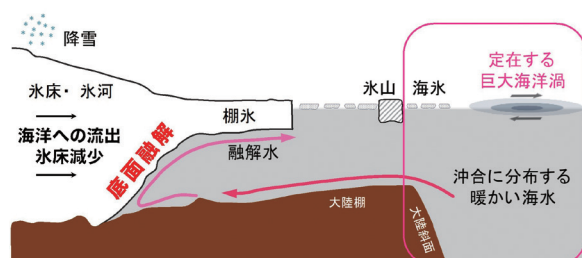
National Institute of Polar Research

日本の極域科学研究と 極地観測の中核機関

南極と北極は地球環境の変化に敏感に反応し、またその変化は人類の将来にも大きな影響を与えます。極地研は、南極や北極でのフィールド調査等で得られる観測データを基に、地球惑星科学や生命科学の視点から先端的な研究を推進し、学術的な成果を得るのみならず、地球規模課題の解決に貢献します。また、海洋資源および陸域生態系の保護等に関する研究・調査を通じてSDGsの達成にも貢献します。さらに、南極地域観測事業と北極域研究加速プロジェクト (ArCS II) では実施中核機関を務め、南極と北極にある観測基地・拠点や、観測施設・設備、観測船などのプラットフォームを全国の研究者に提供しています。



南極ドームふじの氷床下に広がる大陸地形をレーダー探査により解明。過去100万年を超えるアイスコアの掘削に不可欠な情報となる



東南極・トッテン氷河沖合での海洋観測により、巨大な海洋渦が暖かい海水を効率的に南極大陸方向へと輸送していることが明らかとなった

NII 国立情報学研究所

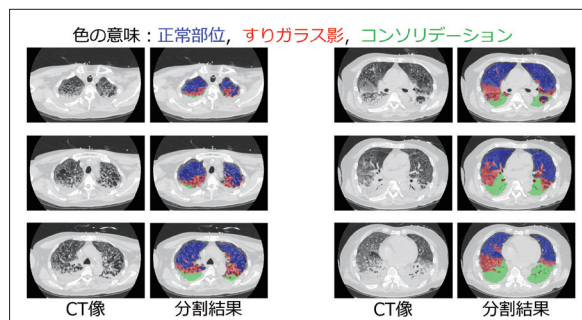
National Institute of Informatics

情報から知を紡ぎだし 未来価値を創成

情報学という新しい分野での「未来価値創成」を使命とする、国内唯一の学術総合研究所として、基礎論から人工知能、ビッグデータ、IoT (Internet of Things)、情報セキュリティといった最先端のテーマまで幅広い研究を推進しています。また、学術研究プラットフォームとして、SINET6等の運用や、研究データの管理・公開・検索を可能とする研究データ基盤NII RDC (NII Research Data Cloud) の事業展開を推進しています。加えて、大学間連携に基づく情報セキュリティ体制基盤を構築しています。さらに国内外の大学や研究機関、民間企業等との連携・協力も重視した運営を行っています。



学術情報ネットワークSINET6はほぼ全国を400Gbpsでつなぐネットワークを構築し、オープンサイエンスの基盤を支えています



医療ビッグデータクラウド基盤のAI自動診断研究による、新型コロナウイルス感染症肺炎を自動分類するAIの診断結果の例

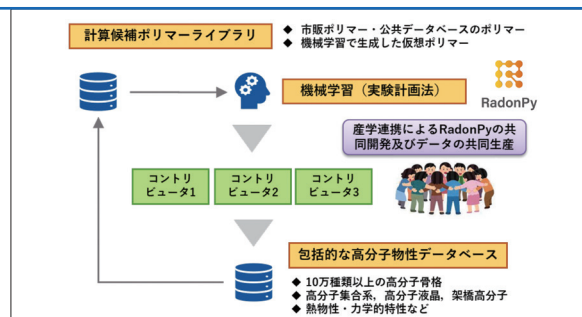


統計数理研究所

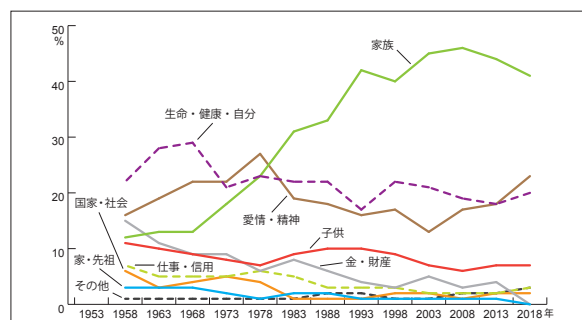
The Institute of Statistical Mathematics

統計数理科学の総合研究と 統計人材の育成

大規模・複雑なデータに基づく統計数理科学の中核機関として、先端的な研究を推進し、国際的評価の高い研究を持続的かつ創造的にを行っています。スーパーコンピュータの共同利用による多様なデータ基盤の整備・ソフトウェアの提供に加え、コミュニティからの要望やSDGs達成、環境負担低減等の社会の要請に応えるため、NOE (Network Of Excellence) 形成事業を通じて産官学と幅広く連携する一方、様々なレベルの統計思考に関わる人材育成プログラムを展開しています。また、医療統計データサイエンス人材の育成や、全国の大学で急拡大しているデータサイエンス教育の体制整備に資するため、統計学の教育研究を担える若手の統計エキスパート人材の育成にも注力しています。



統計数理研究所が開発した高分子物性自動計算ソフトウェアRadonPyと産学連携コンソーシアムによる材料データベースの共創



65年以上に渡り統計研が調査・分析を続けている「日本人の国民性調査」における「一番大切なものは何か」のグラフ

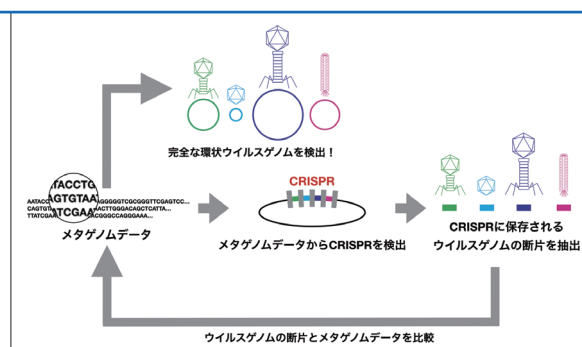


国立遺伝学研究所

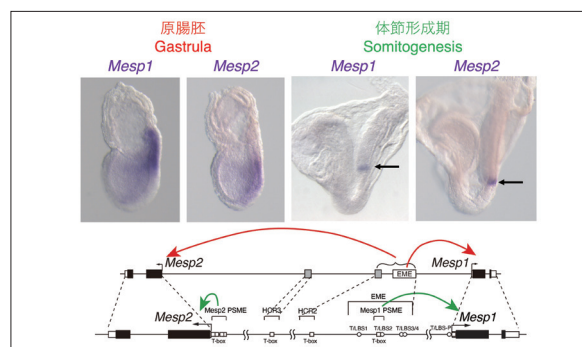
National Institute of Genetics

すべての生命は 遺伝情報が基盤となる

遺伝情報とは生命の源であり、次世代へ受け継ぎながら変化していきます。この遺伝情報という切り口から生命の謎に挑戦するのが遺伝学です。遺伝研は、細胞機能、発生・分化、進化・多様性、ゲノム・生命情報などについて最先端の研究をおこなうと同時に、生命科学の新たな研究分野の開拓に挑戦しています。さらに、大学共同利用機関としてゲノム解読／生命情報データベース／バイオリソース／フェノタイプ研究推進事業を展開することで生命科学に関わる学術・産業コミュニティに遺伝学の先端的な共同利用・共同研究の場を提供しています。また、情報研とDS施設との連携により、バイオデータサイエンスの基盤となる「バイオデータ研究拠点(BSI: BioData Science Initiative)」を形成し、全国的な拠点としての活動を目指します。



原核生物の免疫記憶を使ったウイルスゲノムの網羅的探索



中胚葉形成を決める転写因子の発現制御を同定

学理を究め、最先端の研究を推進する研究所・施設

データサイエンスの分野をリードする新しい研究施設を紹介します。



データサイエンス共同利用基盤施設

Joint Support-Center for Data Science Research

データサイエンスによる 知の開拓

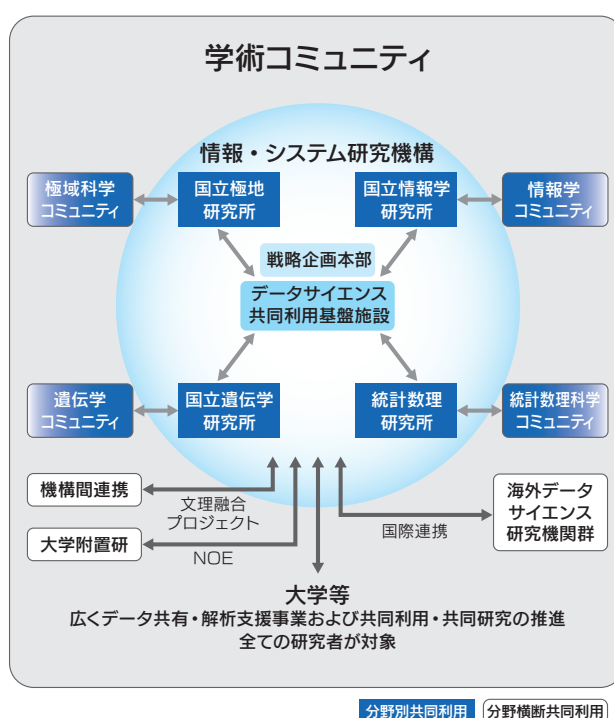
データサイエンス共同利用基盤施設 (DS施設) は、データサイエンス (データ駆動型研究) を合い言葉に、大学等との連携・協働の一層の強化を目的に、それまでの大学共同利用機関にはない新しいタイプの研究施設として2016年度に情報・システム研究機構に設置された研究組織です。DS施設では、ROISを構成する4つの研究所や、他の大学共同利用機関法人の研究所等と協力しながら、生命科学・地球惑星科学等の自然科学や社会科学・人文学との連携を目指し、新たな異分野融合・新領域開拓に関する研究活動に取り組みます。また、データ共有支援事業及びデータ解析支援事業、人材育成事業、公募型共同研究等を行い、科学の発展や社会のイノベーションの推進を支援しています。



江戸をみせたい人が公開し、江戸をみたい人が活用する、新しいタイプのデータポータル「edomi」<http://codh.rois.ac.jp/edomi/>

各研究所とデータサイエンス共同利用基盤施設との関係

4つの研究所 (極地研、情報研、統数研、遺伝研) とともに、組織中央に融合的な研究を推進するためのセンターを設置するという当機構の理念に基づき、法人化以前の文部科学省令で設置された大学共同利用機関ではない新しいタイプの研究組織として、DS施設を設置しています。DS施設が中心となり、他の大学共同利用機関法人の研究所等とも協力しながら、国内外の大学や研究機関等との連携や協働が一層図られるよう、その強化を目的に活動するとともに、科学の発展や社会のイノベーションへの貢献を目指しています。2022年現在、ライフサイエンス統合データベースセンター (DBCLS)、極域環境データサイエンスセンター (PEDSC)、社会データ構造化センター (CSDS)、人文学オープンデータ共同利用センター (CODH)、ゲノムデータ解析支援センター (CGI)、データ同化研究支援センター (CARA) の6センターから構成されています。



多様なニーズの高度化に応える共同利用・共同研究

社会的課題への取り組みや特徴的な研究活動をピックアップして紹介します。

NII SINET6—学術研究を支える 世界最速ネットワーク基盤

Society5.0時代を見据えた基盤へ

ネットワークとITの進歩がAIやIoTの急速な発展を促しており、実世界のあらゆる活動から取得したデータをサイバー空間で解析し社会生活の効率化や変革に役立てるデータ駆動型社会（Society5.0）を迎えつつあります。SINETにはそのようなSociety5.0を推進する基盤としての役割も求められるようになりました。

アップグレードされたネットワーク基盤「SINET6」

SINET6は、年々増大する研究データに対応するため、SINET5の全国100Gbps高速ネットワークを全国規模として世界最速の400Gbps超高速ネットワークへとアップグレードしました。また、IoT系研究の広汎な展開に対応するための5G高速モバイルアクセス技術、研究活動の特徴に応じた多様な仮想専用網（VPN）技術などの導入により、超高速の有線と無線が融合した革新的でセキュアな環境を提供します。そのほか大容量データを扱う大型研究施設や大学を支援するための国内接続点の増設、諸外国の研究用ネットワークとの国際接続の強化を図りました。



SINET6をネットワーク基盤として、様々な研究基盤が構築されていきます

進化する研究環境を支え続ける

情報研では、循環的な研究ライフサイクルに沿ったさまざまなステップにおいて研究活動を支援することができる総合的な基盤として、ネットワーク基盤SINETと研究データ基盤NII RDCを融合した「学術研究プラットフォーム」の機能充実を推進しています。これからも常に進化し続ける研究環境をSINETは支えています。



機械学習で準結晶を形成する化学組成を同定

準結晶研究の現状と課題

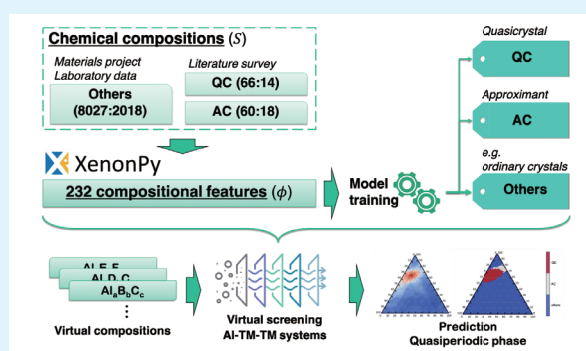
準結晶は通常の周期結晶のような並進対称性はないものの原子配列に高い秩序性がある物質です。1984年の発見以降、これまでに約100個の熱力学的に安定な準結晶が見つかってきましたが、近年は新しい準結晶が発見されるペースが著しく低下しています。その原因は、準結晶の形成ルールや安定化のメカニズムがほとんど分かっていないことです。

準結晶研究におけるデータ駆動型科学の学術創成

準結晶研究におけるデータ駆動型アプローチの実践は、依然としてほぼ未踏領域です。統数研では、データ科学の解析技術を用いて新しい準結晶の発見を加速し、準結晶の形成メカニズムを理解することを目的として研究を進めています。

データ科学を駆使して準結晶の発見を大幅に加速

本研究により、準結晶を形成する化学組成を非常に高い精度で予測できる機械学習のアルゴリズムが開発されました。実際にこれまでに複数の新しい準結晶が合成さ



準結晶の化学組成を予測する機械学習（3クラス分類問題）のワークフロー。モデルの入力変数は化学組成（S）、出力は準結晶（QC）、近似結晶（AC）、周期結晶を含むその他（“Others”）を表すクラスラベル

れてきました。また、機械学習のブラックボックスモデルに内在する入出力のルールを抽出することで、準結晶の形成に関する五つの法則が明らかになりました。現在は多数の研究者がこの手法を用いて、半導体準結晶、超伝導準結晶、強磁性準結晶などの革新的特性を持つ新物質を探索しています。

多様なニーズの高度化に応える共同利用・共同研究

最先端の学術基盤や国際連携に基づき、全国の大学や研究機関等の研究・教育を支援するプロ

極地研

極域科学に関する試資料や設備の提供

二次イオン質量分析計SHRIMP等を用いた隕石・岩石・鉱物の分析（極域科学資源センター）、極域科学大型計算機システムの利用（情報基盤センター）、アイスコア掘削機の貸出や掘削協力、南極ドームふじアイスコアの共同研究（アイスコア研究センター）、南北両極に設置されている大型大気レーダーの共同利用（先端的レーダー研究推進センター）等を行っています。



南極のドームふじ基地で掘削されたアイスコア

共同利用

共同研究

国際活動

研究基盤



極地研

遺伝研

遺伝情報の解読・利用支援

大規模な遺伝情報の解析を支援するため「先端ゲノミクス推進センター」が最先端のシーケンシング技術と情報解析技術を駆使した共同研究を推進しています。膨大な遺伝情報のデータは、「生命情報・DDBJセンター」が我が国唯一のリポジトリとして収集・提供しています。また、生命科学系のデータ解析に適したスーパーコンピュータを提供し、毎年、全国130以上の機関が研究に利用しています。



共同利用

共同研究

ビッグデータ

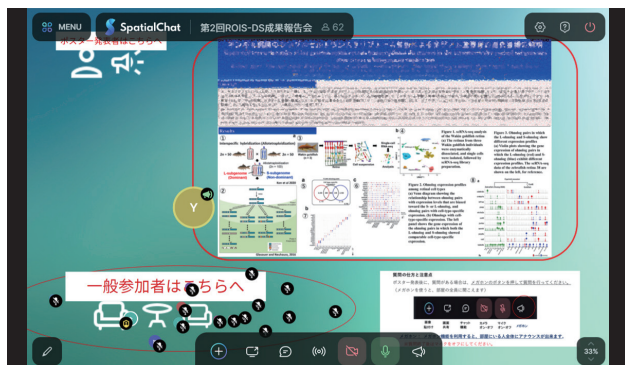
受託事業



DS施設

DS施設成果報告会を開催

公募型共同研究の成果発信として開催しています。3回目となる2022年度についてもオンラインで開催しました（当日の講演動画はDS施設ウェブサイトで公開済）。第1部の招待講演、第2部の各センター活動報告に続き、第3部ではビデオチャットツールを使用したポスター発表の場を設け、共同研究の成果について活発な議論が行われました。



気軽にポスター会場を行き来できるオンラインツールの活用 (SpatialChat Ltd製)

共同研究

研究基盤

ビッグデータ



遺伝研

バイオリソース事業とフェノタイプ研究推進

生物遺伝資源センターでは、生命科学研究に重要な実験生物系統の開発や系統解析を行います。国のナショナルバイオリソースプロジェクトと連携することで、これらの系統の維持と分譲を行うとともに、系統情報のデータベースを構築・公開しています。フェノタイプ研究推進センターでは、遺伝研が創出した遺伝学的な研究手法やリソース、及び、施設の利用等を受託型事業として提供しています。



共同利用

ビッグデータ

国際活動

研究基盤



グラムを提供しています。

統数研

スーパーコンピュータと情報資源

共同利用を目的に「統計科学スーパーコンピュータシステム」と「共用クラウド計算システム」を併せて、国内外のコミュニティが求める資源と環境を提供しています。2023年3月には、「データ同化スーパーコンピュータシステム」の入れ替えを完了しました。統数研図書室は、我が国唯一の統計科学専門図書室として、電子媒体を含め学術誌および図書も多数揃えています。



統計科学スーパーコンピュータシステム（左上）、共用クラウド計算システム（右上）、データ同化スーパーコンピュータシステム（右下）

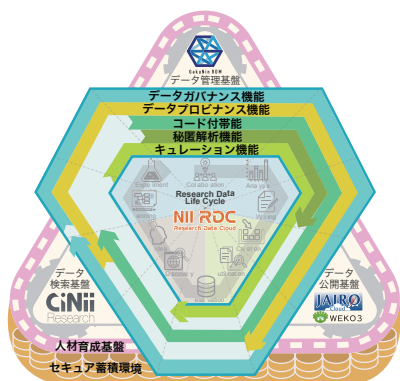
共同利用 共同研究 ビッグデータ



情報研

研究データ基盤「NII RDC」

データ駆動型科学やオープンサイエンスを推進するために開発してきた、研究データ基盤NII Research Data Cloud：NII RDCの運用を2021年から開始しました。大学や研究機関における研究データポリシー策定と連動して、多くの機関での利用が始まっています。新しい機能群の拡充により、日本のデータ戦略を先導する基盤として常に進化しています。



NII Research Data Cloudの全体構成図

共同利用 共同研究 研究基盤 産学連携



DS施設

分野を問わない公募型共同研究

「ROIS-DS-JOINT」として全国の研究者等に広く共同利用／共同研究の機会を提供しており、年々新たな参加機関が増え、データ駆動型研究の支援範囲を順調に拡大しています。「一般共同研究」と「共同研究集会」の2種類があり、学生や企業の方も参加可能で、研究者ではない方も集会の代表者になれます。

センター名	種別	2017	2018	2019	2020	2021	2022	累計	総計
ライフサイエンス統合データベースセンター	般共同研究	3	7	8	7	7	8	40	53
	共同研究集会	4	4	4	0	0	1	13	
極域環境データサイエンスセンター	般共同研究	3	7	8	7	8	12	45	48
	共同研究集会	0	1	1	0	0	1	3	
社会データ構造化センター	般共同研究	5	7	10	7	8	8	45	47
	共同研究集会	2	0	0	0	0	0	2	
人文学オープンデータ共同利用センター	般共同研究	2	4	3	4	4	6	23	26
	共同研究集会	0	3	0	0	0	0	3	
ゲノムデータ解析支援センター	般共同研究	3	1	3	2	4	4	17	17
	共同研究集会	0	0	0	0	0	0	0	
データ同化研究支援センター (旧データ融合計算支援プロジェクト)	般共同研究	4	4	5	6	6	8	33	37
	共同研究集会	2	1	1	0	0	0	4	
採択件数・採択率	般共同研究	20	30	37	33	37	48	205	
	採択率	95.2%	90.9%	100.0%	91.7%	94.9%	96.0%	94.9%	
	共同研究集会	8	9	6	0	0	2	25	
	同採択率	100.0%	100.0%	100.0%			100.0%	100.0%	
応募数	合計採択率	96.6%	92.9%	100.0%	91.7%	94.9%	96.2%	95.4%	
	般共同研究	21	33	37	36	39	50	216	241
	共同研究集会	8	9	6	0	0	2	25	
	参加機関数（採択時）	43	70	74	66	77	77	407	
参加者数（採択時、のべ）	般共同研究	43	42	33	16	16	9	159	
	共同研究集会	88	130	135	123	145	170	791	

公募型共同研究による活動実績

共同研究 研究基盤 ビッグデータ



極地研

北極域大型研究計画の推進

北極域研究加速プロジェクト（ArCS II）の代表機関として、北極域に関する先進的、学際的研究を推し進め、その成果を北極海氷予測などの発信を通じて社会に還元しています。また、次世代欧州非干渉散乱レーダー計画（EISCAT_3D）の推進や、ノルウェー・スバルバル諸島にあるニーオルスン基地の運営も実施しています。



ニーオルスン基地遠景

共同利用 共同研究 国際活動 研究基盤



極地研

公募型共同研究による他機関との研究活動の展開

当機構の研究資源や人材の提供により、新たな学術研究の発展に取り組めます。

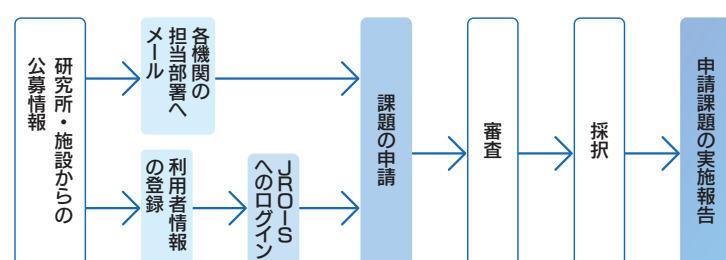
大学共同利用機関法人では、各機関それぞれの分野における先端的研究と新たな研究分野の開拓に取り組むことに加え、各大学との枠を超えた「共同利用・共同研究」の場を提供しています。

当機構では研究資源や人材を活用した4つの研究所ならびにDS施設による公募型の共同研究を推進しており、毎年2,000名以上の研究者を受け入れています。

国内外の大学や研究機関、高等専門学校、民間企業等を対象とした研究所・施設が提供する公募型共同研究に、共同利用・共同研究高度化支援システム（JROIS：Joint-Research On-line Integrated System）や各機関の公募型共同研究担当を通じて申し込みいただき、審査を経ることで、当機構の研究者と共に共同研究や研究集会を実施いただけます。

「公募型共同研究」は、研究所・施設ごとに対象や内容が異なりますので、詳細は各ウェブサイトをご確認ください。

■ 公募型共同研究の実施までの流れ



■ 共同利用・共同研究高度化支援システム JROIS



<https://jrois2.rois.ac.jp/> JROISトップページ

共同利用・共同研究のお問い合わせ



国立極地研究所

共同利用、公募型共同研究（一般共同研究、研究集会、共同研究育成研究員）など

<https://www.nipr.ac.jp/research/>

お問い合わせ窓口：研究推進課 共同利用係 電話 050-5533-8644 E-mail kyodo-nipr@t.rois.ac.jp



国立情報学研究所

共同利用、公募型共同研究（戦略研究公募型、研究企画会合公募型、自由提案公募型）など

<https://www.nii.ac.jp/research/collaboration/koubo/>

お問い合わせ窓口：企画課社会連携推進室 公募型共同研究担当 E-mail kyoudou@nii.ac.jp



統計数理研究所

共同利用、公募型共同研究（共同利用登録、一般研究、重点型研究、共同研究集会）など

https://www.ism.ac.jp/kyodo/index_j.html

お問い合わせ窓口：研究推進課 共同利用係 電話 050-5533-8513 E-mail kyodo-ism@t.rois.ac.jp



国立遺伝学研究所

共同利用、公募型共同研究（共同研究、国際共同研究、研究会）など

<https://www.nig.ac.jp/nig/ja/research-infrastructure-collaboration/nig-collaboration-grant>

お問い合わせ窓口：総務企画課 研究推進係 E-mail kyodo-mail@nig.ac.jp



データサイエンス共同利用基盤施設

共同利用、公募型共同研究（ROIS-DS-JOINT〈一般共同研究、共同研究集会〉）など

<https://ds.rois.ac.jp/crp/calling/>

お問い合わせ窓口：データサイエンス推進室 電話 042-512-9254 E-mail ds_suishin@ois.ac.jp

■ 共同利用・共同研究に関する総合的なお問い合わせについては、当機構本部事務部までご連絡ください。

<https://www.rois.ac.jp/research/coop.html>

お問い合わせ窓口：URAステーション 産学連携・知的財産室 電話 03-6402-6211 E-mail kenkyo@ois.ac.jp

情報発信・各種データ

当機構の活動を様々な形で社会へ発信しています。

》シンポジウム

機構本部では、年に1度、機構の役割や活動、最新の研究活動等について情報発信するシンポジウムを主催しています。また、2020年度よりROIS産学連携セミナーを開催し、データサイエンスの最新動向や具体的な活用事例等を主に企業向けに紹介しています。

》一般公開 オープンハウス

各研究所では、広く地域の皆さまや研究を志す方々に、研究の現場を公開する日を設けています。研究者による講演会等を交えて、日頃の研究活動や成果を紹介しています。

》展示室

遺伝研の遺伝学博物館展示室では、ダーウィン『種の起源』初版本をはじめ、遺伝研と生命科学の発展を表す歴史的資料を展示しています。統計研の計算機展示室では、情報処理学会情報処理技術遺産に認定された物理乱数発生装置をはじめ、数多くの希少な機器を展示・公開しています。



遺伝学博物館展示室



統計研計算機展示室

》サイエンスレポート

機構本部では、研究活動を分かりやすく紹介するウェブサイトサイエンスレポートを運営しています。

また、機構ウェブサイトでは、研究成果等の動画や教材を紹介する公開コンテンツ100連発!を公開中です。



》南極・北極科学館

臨場感あふれるオーロラシアターや、南極隕石、ホッキョクグマやペンギンのはく製など、南極観測・北極観測について広く情報発信する、極地研に隣接した常設展示施設です。



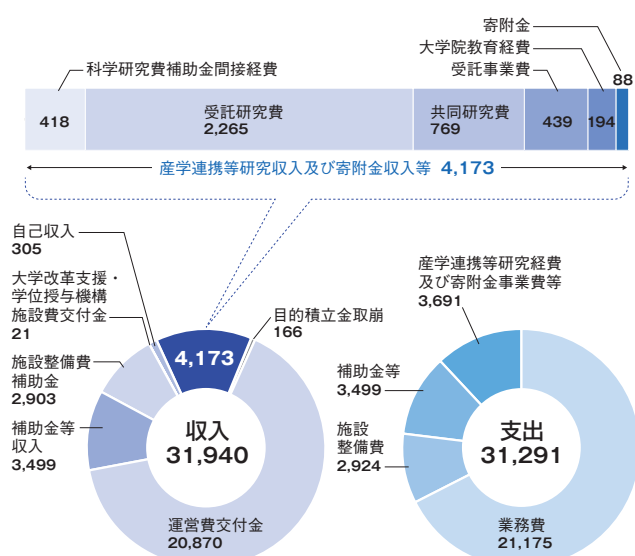
》出版物

研究成果を一般の方にも分かりやすく解説した極地研ライブラリー、情報研シリーズ、ISMシリーズを市販の書籍として出版しています。



収入と支出 (2021年度)

単位: 百万円 (切捨)



共同研究 (公募型) 機関数及び共同研究員数 (2021年度)

	機関数 (件)	総数 (人)	共同研究員の所属機関の内訳					
			国公立大学	私立大学	大学共同利用機関	公的機関	民間機関・その他	外国機関
本部	7	8	1	1	2	0	0	4
極地研	191	1,144	726	112	33	182	58	33
情報研	93	383	272	79	10	13	4	5
統計研	274	938	473	270	10	115	61	9
遺伝研	105	371	219	77	8	20	7	40
D S 施設	75	133	63	33	1	15	8	13
合計	474*	2,977	1,754	572	64	345	138	104

*は重複を除いた数値

総合研究大学院大学における教育 (2021年度)

単位: 人・件

研究科	専攻	基盤機関	在籍学生数 (うち留学生)	学位授与数
複合科学研究科	極地科学専攻	極地研	19 (1)	2
	情報科学専攻	情報研	97 (53)	16
	統計科学専攻	統計研	39 (2)	7
生命科学研究科	遺伝学専攻	遺伝研	39 (22)	3
計			194 (78)	28

※在籍学生数は5月1日時点の数値

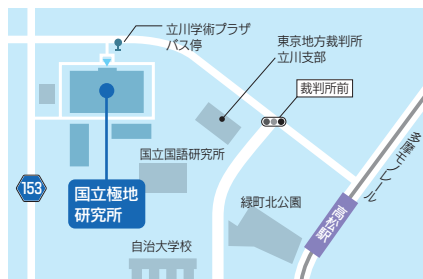
情報・システム研究機構 本部

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-3-13 ヒューリック神谷ビル2階
<https://www.rois.ac.jp/>



国立極地研究所

〒190-8518 東京都立川市緑町10-3
<https://www.nipr.ac.jp/>



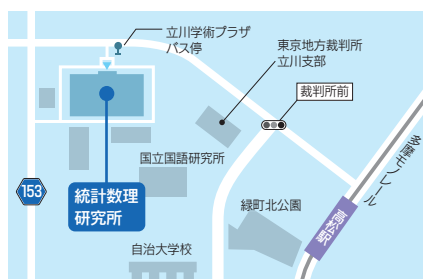
国立情報学研究所

〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋2-1-2 学術総合センター
<https://www.nii.ac.jp/>



統計数理研究所

〒190-8562 東京都立川市緑町10-3
<https://www.ism.ac.jp/>



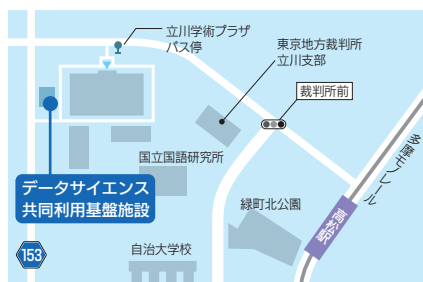
国立遺伝学研究所

〒411-8540 静岡県三島市谷田1111
<https://www.nig.ac.jp/>



データサイエンス共同利用基盤施設

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3 データサイエンス棟
<https://ds.rois.ac.jp/>



大学共同利用機関法人

情報・システム研究機構

Research Organization of Information and Systems

<https://www.rois.ac.jp/>

電話：03-6402-6200(代表)



パンフレット 202305



この製品は、FSC® 認証材、再生資源、およびその他の管理原材料から作られています。揮発性有機化合物 (VOC) を含まないNon-VOCインキを使用し、印刷しました。

